

## 第3回南魚沼市地域公共交通協議会（書面協議） 協議結果

### 1. 通知発送日

平成28年12月22日

### 2. 協議方法

- ・ 会議の開催に代えて書面による協議を実施
- ・ 南魚沼市地域公共交通協議会の各委員に対し、書面により協議内容を周知し、回答を依頼

### 3. 協議事項

- ①. 大崎コース延伸による事業計画変更認可申請について
- ②. 南魚沼市民病院駐車場工事による事業計画変更認可申請について
- ③. 地域公共交通確保改善事業に関する事業評価について

### 4. 協議結果

#### 【回答状況】

委員数：20人（会長を除く）

回答数：20人

委員の過半数の回答があったため協議会開催が成立（協議会規約第9条第2項）

#### 【回答結果】

- ①. 大崎コース延伸による事業計画変更認可申請について

有効回答数：20人

「賛成する」と回答した委員数：19人

「一部修正を提案します」と回答した委員数：1人

提案内容：「麓ふれあいセンター」から「長森集落センター」の間が、距離が離れているためもう1か所バス停を設置すれば利用者も増加するのではないかと。

- ②. 南魚沼市民病院駐車場工事による事業計画変更認可申請について

有効回答数：20人

「賛成する」と回答した委員数：20人

- ③. 地域公共交通確保改善事業に関する事業評価について

有効回答数：20人

「賛成する」と回答した委員数：20人

出席委員の過半数の承認を得たため（協議会規約第9条第4項）よって、本議案については原案のとおり承認されました。

今回いただいた提案につきましては、また今後の協議会の中で協議していくものいたします。

協議事項 1：大崎コース延伸による事業計画変更認可申請について

1. 申請者

南越後観光バス(株)：大崎コース

2. 実施予定日

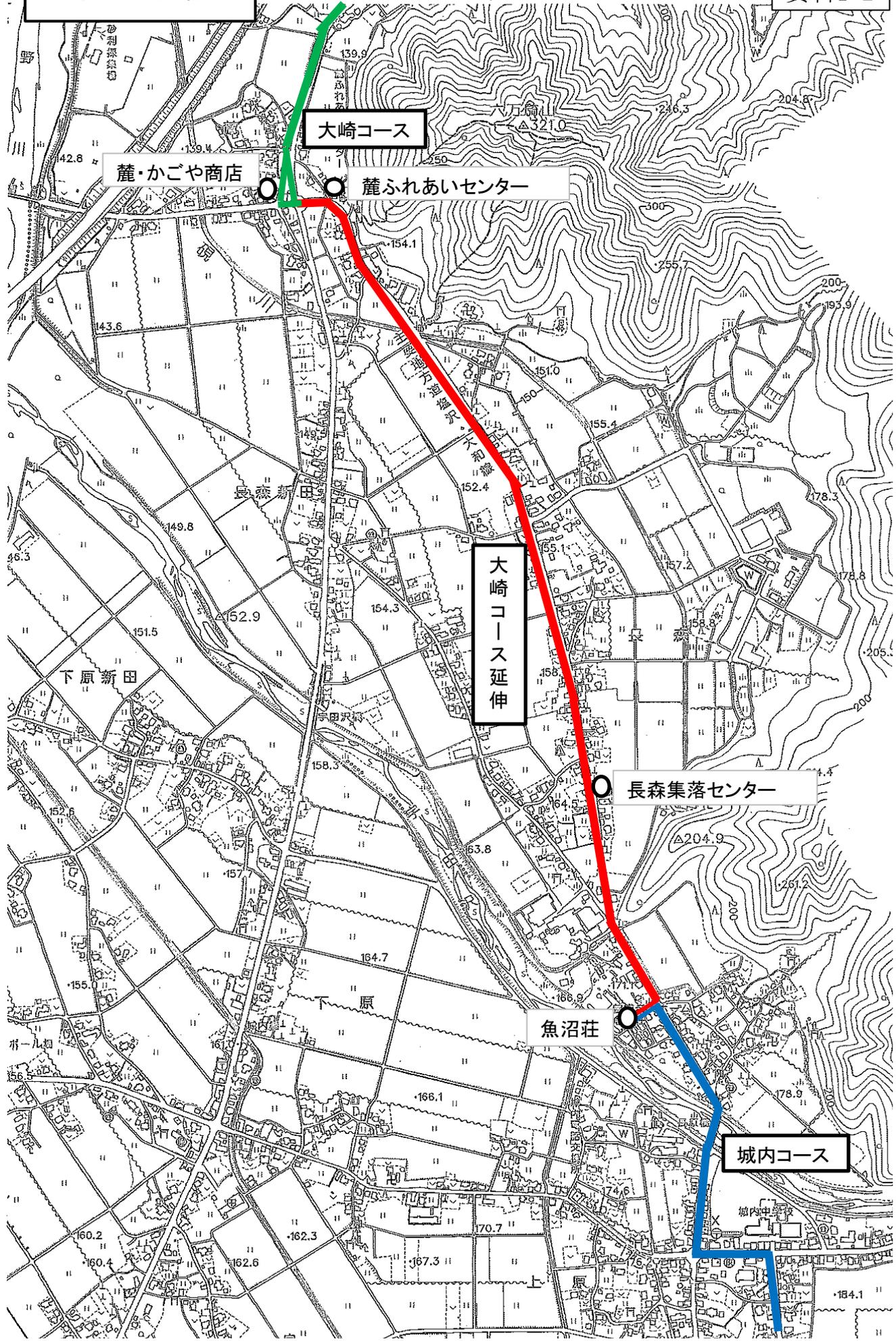
平成 29 年 4 月 1 日

3. 事業計画等（路線定期運行）

別紙「資料 1-2」参照

4. 認可を必要とする理由

市民バスを城内地域から魚沼基幹病院、ゆきぐに大和病院に接続するため、また、大崎地域から市民病院に接続するため、大崎コースを魚沼荘まで延伸し、城内コースと接続させるよう新規路線として申請するものです。



協議事項 2：南魚沼市民病院駐車場工事による事業計画変更認可申請について

1. 申請者

㈱魚沼中央トランスポート：石打・竹俣コース、中之島・吉里コース

銀嶺タクシー㈱：上田・泉田コース、大巻・泉コース

南越後観光バス㈱：五十沢・大月コース、城内コース

2. 実施予定日及び事業計画等（路線定期運行） 別紙「資料 2-2」参照

平成 29 年 3 月 21 日～平成 29 年 9 月 1 日

市道県立病院線～駐車場～市道杉ノ島横枕線を運行（赤色路線）

平成 29 年 9 月 2 日～市民バス運行期間

市道県立病院線～病院玄関前（青色路線）

3. 認可を必要とする理由

南魚沼市民病院玄関前のキャノピー設置工事と消雪設備工事の間中はバスが通行できないため、病院の駐車場内を運行します（赤色路線）。期間が長いため、新潟運輸支局の指導により、新規路線として申請するものです。

また、工事の終了に伴い病院玄関前にバス停「南魚沼市民病院」を設置し、新たな運行経路とするためのものです（青色路線）。これに伴い、工事中にバスが運行していた駐車場内の運行経路は廃止とします。

市民病院駐車場工事に伴うバス路線

資料2-2

キャンピ―設置工事  
消雪設備工事  
3月21日～9月1日通行不可  
9月2日から運行  
新規路線申請

バス停

南魚沼市民病院

バス停

市道杉ノ島線

バス停

市道県立病院線  
幅員8.2m

L=140m

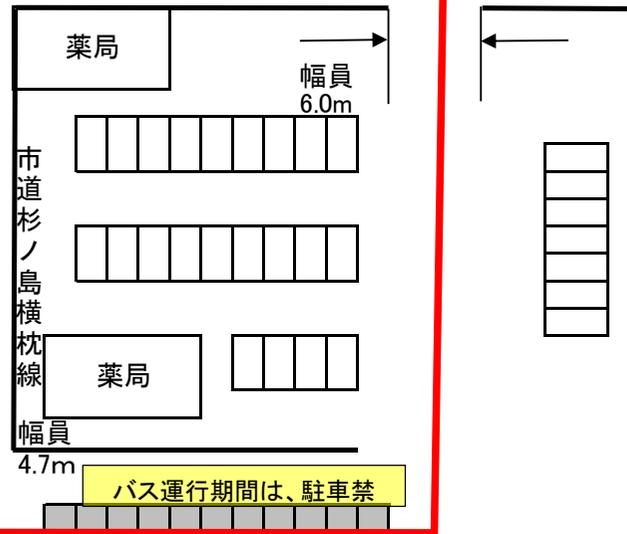
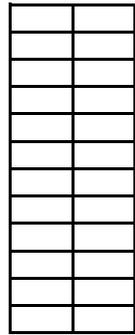
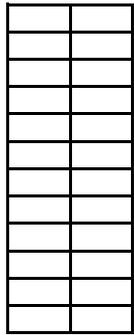
3/21～新規路線

L=140m

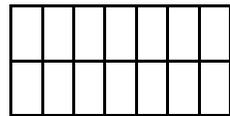
9/2～新規路線

幅員7.6m

共通部分



3月21日～9月1日運行



## 協議事項 3：地域公共交通確保改善事業に関する事業評価について

## 1. 事業評価の目的等

南魚沼市交通政策協議会が策定する「生活交通確保維持改善計画」は、国の地域公共交通確保維持改善事業の支援を受けて進めているものです。該当する事業については、毎年度、協議会において事業の実施状況の確認、目標達成状況等の事業評価を行うこととされております。

協議会は、生活交通確保維持改善計画に位置付けられた補助対象事業について、事業の実施状況の確認、目標達成状況等の評価を行うことによって、補助対象事業がより効果的、効率的に推進されることを目的としています。

## 2. 事業評価の流れ

事業評価と生活交通確保維持改善計画の関係は、次のとおりです。

①「生活交通確保維持改善計画」 …平成27年5月18日協議会にて策定

②事業実施 …実施期間：H27.10.1～H28.9.30

③自己評価（1次評価） …平成29年1月に運輸局に報告  
※今回ご審議いただく内容になります。

④2次評価 …北陸信越運輸局において、学識経験者等の有識者及び運輸局担当部長等により構成される第三者評価委員会を経て、二次評価を行い、その評価結果を協議会に対し通知するとともに、必要に応じて生活交通確保維持改善計画の見直し等に関する助言を行います。

## 3. 一時評価シート

別紙「資料3-2」、「資料3-3」のとおり

「資料3-2」表中の「③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況」について、市民バス事業は、地域公共交通確保維持改善事業の対象になる前から行っていますが、この度の事業評価は、地域公共交通確保維持改善事業の「生活交通確保維持改善計画」に基づく補助事業としての評価です。今回は、初年度にあたるため記入不要となります。

「④事業実施の適切性」については、自然災害や事故などのトラブルもなく、計画通り運行することができたため、Aと評価しました。

「⑤目標・効果達成状況」については、目標を達成したものはAとし、7割以上達成したものはBとし、7割未満のものをCと評価しました。目標を達成できなかった理由としては全体的に、人口の減少と高齢者の免許証の保有率の増加によるものが考えられます。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料3-2

平成 年 月 日

協議会名:南魚沼市地域公共交通協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(株)魚沼中央トランスポート	・石打・竹俣コース(五十嵐～塩沢庁舎～南魚沼市役所)		A 計画通り適正に実施された。	B 利用者目標4,200人に対して3,186人であった。高齢者の免許証の保有率の増加と医療機関の無料送迎を利用する方が増えたと考えられる。(達成率75.8%)	市とバス事業者が連携し、利用者のニーズの把握するとともに、乗り方教室などを開催し利用促進に努める。
(株)魚沼中央トランスポート	・中之島・吉里コース(柄沢来泉寺～塩沢庁舎～南魚沼市役所)		A 計画通り適正に実施された。	A 利用者目標2,200人に対して2,265人であった。	市とバス事業者が連携し、利用者のニーズの把握するとともに、乗り方教室などを開催し利用促進に努める。
銀嶺タクシー(株)	・大巻・泉コース(大巻泉～庄之又～銀嶺タクシー前)		A 計画通り適正に実施された。	C 利用者目標4,250人に対して2,474人であった。路線を再編した際に路線バスとの競合を避けてルートを変えたことと高齢者の免許証の保有率の増加による減少と思われる。(達成率58.2%)	市とバス事業者が連携し、利用者のニーズの把握するとともに、乗り方教室などを開催し利用促進に努める。
銀嶺タクシー(株)	・上田・泉田コース(沢口バス停～西泉田公民館～福祉センターしらゆり)		A 計画通り適正に実施された。	A 利用者目標2,100人に対して2,255人であった。	市とバス事業者が連携し、利用者のニーズの把握するとともに、乗り方教室などを開催し利用促進に努める。
南越後観光バス(株)	・城内コース(南魚沼市役所～城内～福祉センターしらゆり)		A 計画通り適正に実施された。	B 利用者目標8,300人に対して7,733人であった。高齢者の免許証の保有率の増加に伴い新規の利用者が増えなかったため。(達成率93.1%)	市とバス事業者が連携し、利用者のニーズの把握するとともに、乗り方教室などを開催し利用促進に努める。
南越後観光バス(株)	・五十沢・大月コース(土沢～五十沢～福祉センターしらゆり)		A 計画通り適正に実施された。	C 利用者目標8,700人に対して4,383人であった。高齢者の免許証の保有率の増加と温泉施設の無料送迎を利用する方が増えたと考えられる。(達成率50.3%)	市とバス事業者が連携し、利用者のニーズの把握するとともに、乗り方教室などを開催し利用促進に努める。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成 年 月 日

協議会名:	南魚沼市地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>南魚沼市は、面積584.55Km<sup>2</sup>で新潟県南部の魚沼盆地に位置する中山間地域であり、豪雪地帯でもあり、市の人口は平成7年をピークに減少傾向にありH28年3月末時点で58,574人となっている。</p> <p>市内の幹線を運行する路線バスは、通学、通勤等に利用され、重要な移動手段となっている。また、環境負荷の軽減や交通渋滞の緩和などの役割も果たしている。また、市民バスは、市内の公共交通空白地域の解消及び公共機関・福祉施設や医療機関への移動を目的に運行している。バス事業者は、国県の補助金、市の補助金を受け懸命な努力により路線を維持しているが、自家用車の普及、ますます進む少子化などにより、バスの利用者は年々減少し、市の財政負担は年々増加するなど、地域公共交通を取り巻く環境は厳しさを増してきている。</p> <p>しかしながら、今後は世帯人員減少及び、更なる高齢化進展により、自家用車を運転できない独居高齢者の増加が予想される。</p> <p>フィーダー系統の市民バスは、高齢者や障がいを持った方、学生など、交通手段を持たない方のために、鉄道や地域間幹線系統の路線バスとのアクセスを改善し、誰もが目的地に移動できるようにすることが大きな目標である。</p>